

道徳の時間学習指導案

指導者 行廣 泰子

1. 学年 第4学年1組 24名
2. 日時 平成17年6月23日 (木) 第5校時 4年1組教室
3. 主題名 信頼しあう友だち 2-(3)
4. 本時のねらい

帰ってこないデューラーにお金を送り続けるハンスの気持ちを考えることを通して、友だちと互いに理解し、信頼して助けようとする心情を育てる。

5. 資料名 いのりの手 (学校図書)

6. 主題設定の理由

○ 子どもにとって友だちは不可欠な存在であり、友だちとの交友関係を通してさまざまな体験をし、成長していく。子どもたちは、家族や先生に言えないことも友だちになら相談できることもある。だれでも心から分かり合い、信頼できる友だちをもち、自分もまた友だちから信頼される存在になりたいと思っている。

中学年の子どもたちは、気の合う友だち同士で仲間をつくる傾向がある。しかしそれはあくまでも気が合うとか、単に好きだといった表面的なつき合いであることが多い。そこでこの段階の子どもたちにおいては、開放的で健康的な仲間集団を積極的に育成していくとともに、友だちと互いによく理解し、信頼し、助け合えるよう指導しなければならぬ。具体的には、「状況がよい場合にも、わるい場合にも、心から信じ合い、互いに力を合わせることでできるような友だち関係」を目指して取りこんでいく必要がある。

○ 本学級の児童は友だち同士男女の仲もよく、休憩時間にはクラスのみんなで遊ぶ日を設けたり、みんなで声を掛け合っ外に遊びに行ったりするような姿も多く見られる。また、そうした遊びの中で生じた問題等を帰りの会で話し合い、みんなの中でルールをつくり、よりよい仲間となっていくようにする場面も多くある。

また友だち関係についてたずねたアンケートにおいては、「友だちは本当にはいいものだなと思ったことはありませんか。」という質問に対して、全員の子どもが「ある」と答えている。しかしそれは、「遊んだとき」「助けてくれるとき」「教えてくれるとき」といった楽しみを共有したり、困ったときに助けてもらったりするといった受身での思いが多いことが分かる。また「友だちを励ましたり、慰めたりしているときに、友だちが答えてくれなかったらどんなことを考えますか。」といった質問に対しては「もっと励ます」といった積極的な反応は3名・「へんなことを言ったのかな、ほっ」といってほしいのかな」といった相手の思いに寄り添っているという反応は1名であった。これらのことから、子どもたちの友だちへの思いは、「～してもらおう」という関係にとどまっについて、相手の立場を理解し、お互いに向上し、助け合っていくこうとする思いが弱いのではないかと考える。

また道徳の時間において、力の強い友だち・勉強のできる友だちの言うことには、心の中では賛成できなくとも、意見を合わせておけばよいという打算的な気持ちから、その友だちに同調する行動を選ぶといった意見が出されたことがあった。これ

は、中学年になり、仲間意識が高まり、集団活動が盛んになる一方で、弱いものいじめはよくないと分かっているにもかかわらず、強いものの味方をし、自分を守ろうとするといった自己中心的な考えが残り、相手の立場に立って考えようとする態度が不十分なためではないかと考える。そこで、本学級の子どもたちにとっては、うわべだけの友だちではなく、助け合い、信頼できる真の友だち関係を築くことが重要であることを考える必要があると考える。

- 本資料は実話であり、自分の夢をあきらめてまで相手を思い、相手に尽くす深い友情の話である。

指導に当たっては、中心発問を効果的にする基本発問において、「ハンスはどんな気持ちで『きみが先に勉強しろよ。』と言ったでしょう。」と問い、友だちのことを無条件に信じている思いや友だちを思いやる気持ちに共感させたい。そして中心発問において、「どんな気持ちでお金を送っているでしょう。」と問い、ハンスが迷いながらも、デューラーを信じ友だちを助け続けていることとしている思いに共感させ、ハンスの友だちを思う崇高な姿にふれることによりねらいに迫っていきたいと考える。

中心発問において「お金を送るのをやめてしまえばいいのにどうして送り続けているのだろうか。」と補助発問を行い、友だちの立場に立ち、友だちの思いを深く理解して支え続けたいこうとしているハンスの友情を考えさせ、さらにねらいに迫らせていきたいと考える。

また導入においては、実際の「いのる手」を提示して感想を交流させることを通して、「なぜ「いのる手」として手を描いたのか」といった問題意識をもたせただけで、展開に入っていきたいと考える。

7. 準備物

場面絵 移動黒板

8. 活動の流れ

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の反応	留 意 点
<p>導入</p> <p>1 「いのる手」の絵を見て、印象を話し合う。</p>	<p>「いのる手」の絵を見て、思ったことや不思議に思うことは何ですか。</p> <p>・ なんで手だけ描いたのだろう。</p> <p>・ 何を折っているのだろう。</p>	<p>○学習内容に興味を持つ。</p>	
<p>展 開</p> <p>2 「いのりの手」を聞いて話し合う。</p>	<p>二人は何を思いながら、仕事をしていましたか。</p> <p>・ 早く絵の勉強がしたい。</p> <p>・ 絵の勉強をするためにかんばって働くぞ。</p> <p>・ 必ず絵描きになつてみせる。</p> <p>・ 二人で夢をかなえよう。</p> <p>ハンスはどんな気持ちで「きみが先に勉強しろよ。」と言ったでしょう。</p> <p>・ かんばって勉強して早く代わつてくれよ。</p> <p>・ きみならすぐに上手になれるはずだよ。</p> <p>・ かんばれ。</p> <p>・ 応援しているよ。</p> <p>どんな気持ちでお金を送っているでしょう</p> <p>・ もういやだ。もうお金を送るのはやめよう。</p> <p>・ 早く帰ってきてくれ。</p> <p>・ 何をしているんだ。約束がちがうじゃないか。</p> <p>・ どうしよう。もうお金を送るのはやめようか。</p> <p>・ デューラー、おれはお前を信じている。</p> <p>・ 君はかんばって夢をかなえてくれ。</p> <p>デューラーは何を思いながら「いのる手」を描いているでしょう</p> <p>・ ありがとう。</p> <p>・ ぼくが絵描きになれたのはきみのおかげだ。</p> <p>・ 君はぼくの夢がかなうように折ってくれた。ぼくは君の幸せを祈るよ。</p>	<p>○感情をこめて読み、臨場感を持って、状況を把握させる。</p> <p>○補助発問として「お金を送るのをやめてしまえばいいのにどうして送り続けているの？」と問い、友だちの思いを深く理解し、助け続けているハンスの心情に共感させる。</p> <p>○ハンスの崇高な友情にふれ、感謝の念が高まっていたデューラーの思いに共感させる。</p>	
<p>終 末</p> <p>3 教師の説話</p>	<p>朋友は我が喜びを倍にし、悲しみを半ばにする (キケロ)</p>	<p>○余韻を残して終わらせる。</p>	